

## 1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 実需者のニーズに合致した秋そばの早期出荷モデルを構築する。

## 2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- 【作付面積】そば（R3）79.5ha （R5）81.0ha
- そばは遊休農地を活用して作付け
- 生産したそばは玄そば、そば粉として販売するとともに、自社利用（飲食店）

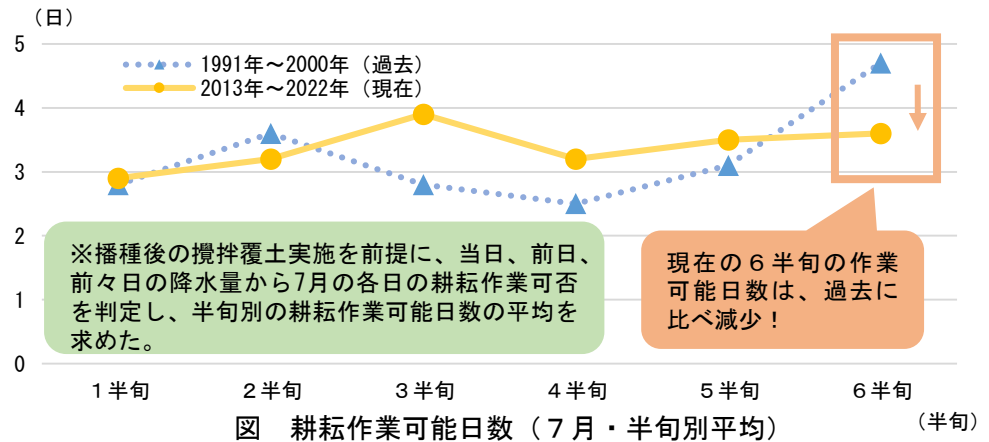
## 3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

### <需要に応じた生産>

- 実需者から新そば早期出荷の要望があったことから、9月中旬から下旬に出荷可能な栽培体系の構築を目指す。

### <秋そばの播種の遅れを防ぐため、播種時期を早めた作型を導入>

■ 南会津地域における秋そばの一般的な播種時期は、7月下旬である。しかし、近年7月下旬の降水日が多く、播種の遅れや湿害が生じている。作業期間の拡大とともに早期出荷を目的として、南会津地域における早期播種作型の適応性を確認する。



## 4 取組成果

### <一般的な播種時期と同等程度の収量を確保>

- 一般的な播種時期の栽培と同等程度の収量を確保。



表 令和5年度の概況

	播種時期 (月日)	坪刈収量 (kg/10a)	成熟期 (月日)
モデルほ場	6月20日	88.7	8月23日
作柄判定ほ（参考）	7月23日	70.5	10月1日

## 5 課題（6年度のポイント）

- 令和5年産のそばは、例年になく高温により全体的に収量が低下した条件下での調査であったため、早期播種作型の生育や収量の安定性を確認するためには、調査を継続する必要がある。品質については、実需者に評価を求め、早期出荷そばとして期待される品質であるかを確認する必要がある。